

香取遺産

Vol.107

園生涯学習課 ☎(50)1224

香取神宮の旧拝殿 祈禱殿



▲大正期の香取神宮



▲現在の祈禱殿

楼門を過ぎて右側に見える丹塗の祈禱殿は、かつて、香取神宮拝殿として使用されていたのを曳屋によって移築したものです。

香取神宮の主な社殿や付属する諸施設は、元禄13年(1700)、5代将軍徳川綱吉の命により造営されました。この時に本殿・拝殿・楼門・摂社・末社や、境内の愛染堂・経蔵などの仏教関連施設も整えられました。

しかし、後者は明治初年からの廃仏毀釈によってその大部分は失われました。

その後、昭和11年から15年にかけて昭和の大修築が国家事業として実施され、これまでもあった幣殿を取り壊し、拝殿については南東方向に移築。その場所に新たな拝殿・幣殿を造営し、本殿と連なった権現造の様式となりました。

昭和13年に移された旧拝殿は周辺の樹木の成長などのため、昭和59年、さらに西へ1.5mほど移動し、今日に至っています。

旧拝殿は桁行五間、奥行三間で正面中央に一間の向拝を持つ入母屋造です。切目縁は四方(建立当初は、正・側面の三面)に回り、背面柱筋に脇障子を立てています。建立時の屋根は、榎葺でしたが昭和40年に銅板葺に改められました。

正面の向拝回りの木鼻・墓股・手挟みの彫刻や虹梁に彫られた渦文の深さなどに製作年代の様式が示されているといわれています。

壁や柱は丹塗で、内部は間仕切を設けず一室とし、背面の突出部を神棚としています。床は拭板敷、天井は格天井で裏板には昭和初期に描かれた草花の彩色が施されています。

昭和13年の移動に際して、一部の部材は改変されましたが、旧状を良く残しています。拝殿としては比較的大規模なもので構造形式や彫刻等の随所に造営時代の様式が示されていることから、平成19年に県の文化財に指定されました。現在の幣殿・拝殿・神饌所は、国の登録文化財です。

文芸

作品募集 はがき1枚に俳句2句・短歌2句のどちらかと、本名、住所、電話番号を記入し、〒287-8501 広報かとり「俳句」または「短歌」の係まで。毎月15日までの到着分(12月10日締切)を審査し、翌月号に掲載。掲載される作品は、選者により評を踏まえて添削される場合があります。

香取俳壇

佐藤 泰之選

香取野の製茶処や五月来る

嶋田 武夫(下飯田)

評 香取野とは、栗源から大栄方面の下総台地の地名だそう
で、古くから製茶処であり、今でも八十八夜頃は新茶作りが
盛んで、その香りが漂ってくるようです。

地震の傷桜前線癒しつつ

奥村 利夫(一ノ分目)

病あけ掘りし筍味深し

椎名 加津代(扇島)

子らよりの金婚の旅風光る

松澤 和子(野田)

種浸すアキタコマチとコシヒカリ

根本 智子(大島)

春雨に茶柱立ちし朝餉かな

黒田 昭二(佐原イ)

香取歌壇

稲村 恒次選

・旧仮名遣い

川岸の草中に抱卵の白鳥をり傍へに一羽確と
守れる 木内 幸子(八日市場)

評 抱卵する白鳥とそれを見守る番の珍しい光景を捉えた。白鳥は本来シベ
リア方面で繁殖するものだが、ここに留まってる奇蹟を選んだのだ。子育て中
は警戒心が強くなるので注意して見守りたい。白鳥は古来から親しまれてきた。

白き紋ふたつ鶴の背に見たり手術うけて七日
癒えしまなこに 長嶋 理子(高萩)

楽しみは野菜づくりと吾が言へば無理なきや
うにと主治医の助言 菅谷 ふさ(久保)

亡き母が漬けたる梅の数も減り朝な朝なに
つだけ食ぶ 伊藤 かつ江(津宮)

建て替へてまだ日の浅き新校舎児童ら減りて
廃校となりぬ 根本 智子(大島)

花冷えの四月初めの神楽殿鈴の音ひびく稚児
舞を観る 清水 和子(神生)

編集後記

思いがけず慌ただしい日々を送っている編集Hですが、広報かとり15日号もどうにか校了を迎え、ほっと一息。帰宅途中の景色にも目を向けられるようになりました。信号待ちの間、車窓から野生の藤を見つけたのですが、この藤がすごい。一本の電柱を覆い尽くすように薄紫の房が垂れ下がり、さながら藤の化け物。よくこんな住宅地に咲いたものだと力強さに感心します。一方で、きれいだけど信号付近の電柱はどうなのよ、支障なければ良いけれど、と興奮な思考をしてみよう大人脳。落ち着きは持ち合わせつつも、柔軟な感性を養いたいものです。(H)

今月の納期限	
6月1日(月)	
軽自動車税	(全期)
今月の休日納税相談日	
5月31日(日)	

広報かとり

平成27年(2015)5月15日号 No.220

編集 香取市役所総務企画部秘書広報課
〒287-8501 千葉県香取市佐原口2127
TEL 0478-54-1111 FAX 0478-52-4566
http://www.city.katori.lg.jp

小江戸さわら会 20周年特別企画

山車祭りを生み出した 佐原の河岸文化

園小江戸さわら会事務局(商工観光課) ☎(50)1212



潮来市濱壺丁目「神功皇后」

小江戸さわら会創立20周年特別企画として記念式典とシンポジウムを開催します。シンポジウムでは、佐原の歴史と文化についての基調講演、市民参加によるパネルディスカッションを行います。

また、潮来市濱壺丁目、香取市の北横宿区・寺宿区の山車3台を小野川沿いに展示し、曳き廻しを行います。

■日時 5月31日(日)

◇記念式典 正午～

◇シンポジウム 13時～

■場所 与倉屋大土蔵

■入場料 無料

※山車の交流会(15時～樋橋付近にて)